

農地バンクとJAえひめ中央が連携した新規就農者の確保育成と機構事業の推進

取組のきっかけ

愛媛県は生産量全国一位を誇る柑橘王国で、JAえひめ中央管内の中予地区も柑橘栽培が盛ん。同地区の産地は急傾斜地にあり、日当たりと水はけが必要となる柑橘栽培には最適であるが、近年は高齢農家が営農をやめる要因となっていた。

そこで、**農地バンクとJAえひめ中央は、事業連携協定を締結し、新規就農者の確保と園地の遊休化を食い止めるべく、研修事業や農地を担い手へつなげる取組を実施。**



【写真：研修園場】



【写真：研修生】

取組の内容（JAえひめ中央）

- ・**遊休化が懸念される優良園地を農地バンクから借り受け**、県の就農支援策を活用して整備・改植し、新規就農者育成のための「新規就農研修センター」を設置（JA管内に6箇所）。
- ・指導員は、研修生が「産地の担い手」として独立できるよう、園場での実践演習に加え営農に必要な技術や知識、チームワークの大切さなどを幅広く丁寧に指導。研修生の自主性を尊重するなど農業の楽しさが実感できるよう工夫。
- ・2年間の研修修了後、新規就農者が確実に就農できるよう、条件の良い園地の掘り起こしに尽力。

取組の内容（農地バンク）

- ・**意欲ある新規就農者を呼び込む**ため、農地バンクの推進活動のなかでJAの研修事業や県の就農支援策をPR。
- ・新規就農者の園地確保のため、**JAえひめ中央や農業委員会との連携を密にして、貸出希望の情報を幅広く収集。**
- ・遊休化が懸念される優良園地や**新規就農者に見合う園地を借り受け、JAと調整しながら担い手へ集積。**

バックアップ（農業委員、県）

- ・農業委員会は、機構への架け橋として**農地バンク事業の相談窓口**を担うとともに円滑な利用調整に協力。
- ・農業委員は、地元の事情に精通していることや農家との信頼関係を活かして、**機構事業の活用を促すとともに地主と新規就農者の結びつけに協力。**
- ・県は、「JA等における新たな担い手対策」として**農地バンクの活用を踏まえた単独事業を創設。**

研修生の声

「経営品目や就農地を踏まえて園場を選択できることや研修メニューの充実に魅力を感じて県外から応募した。修了後は優良農地で頑張りたい。」
 「収益性のある栽培技術を学ぶことが楽しく実践研修の重労働も苦にならない。就農後は順々に規模拡大していきたい。」
 「地域へ溶け込めるよう研修日以外もアルバイトなどで地元農家と交流している。農業はやり方次第で高収入を得られると思う。」
 「この研修園場では、収穫というゴールまでの過程を変えても同じ結果になるかなどを研究できるので面白い。農業は奥が深いと感じている。」

取り組みの成果（研修事業の実績）

受入状況

H25,26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	合計
3	7	13	11	15	13	14	76

就農状況

H25,26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	合計
-	1	5	12	7	19	11	55

